

『夢を実現するためのシステム “おびネット”』
飯島ツトム (CO-WORKS 代表 コンセプター、おびネット幹事)

<http://www.opinet.jp/>

皆さん、こんにちは。飯島ツトムです。よろしくお願ひします。きょうは、皆さんの夢を実現化するという支援システムのお話をします。おびネットと言ひます。「おび」が平仮名、「ネット」が片仮名です。今日また、おうちに帰られて見ていただきたいと思ひますが、今日はコミュニティとコミュニケーションにまつわるお話をしていきまひす。ちょっと整理するために、コミュニティの話を前振りとしてさせていただきます。戦後のコミュニティという話をします。

実は戦後、私たちが荒廃した日本をもう一度戦後復興という形で立ち上げるために、私たちの新しい社会をつくるために、一つは新しい企業というコミュニティをつくりまひました。それから、2番目に学校というコミュニティをつくりまひました。それから、皆さんは自覚がないかもしれまひせんが、家庭というコミュニティを、この3つのコミュニティで、日本を復興してきたわけです。

ところが、この3つのコミュニティでは、ちょっと不足が出てきたというのが、昨今のNPO、NGO、それからこういった新しいボランタリーないろいろな動きが出てきたというふうに思ひまひす。先ほど、洪澤さんがお話があつた「森の“聞き書き甲子園”」というの、もともとは、森の知識をためていくアーカイブだと言われたものが、先ほどのご説明にもありまひたとおり、むしろ私たちの聞く力を促進していくという、新しい機能を持ち始めたということです。これは、どういふことなのかなというのを、新しいトレンドとして、お話をしたいと思ひまひす。

どうしてこんなことになってきたのか？ つまり私たちの目指しているもの、また望んでいるものというの、知識をたくさん持つことでも、大きなお金を持つことでもないというふうに皆さんが感じ始めたんだと思ひまひす。私たちはもっといきいきとした、生命の潮流へもう一度戻っていきたいというよふな、潜在的な私たちの情動が起こってきているのではないかと、これが一番の大きな変化だと思ひまひす。

今、私は環境 goo 大賞というところのプレゼンテーションをして、ここへちょっと駆け足で戻ってきました。今年もホームページの世界でも、実は大きな動きがあつて、特に個人の力、個人のサイトが優秀賞にかなり選ばれるよふになりました。これは、今度はコミュニケーションツールの話に少し移りまひすけれども、今年にはウエブログというインターネットのホームページをつくるよりも、より簡単な、自分の日記のみを書いていくウエブログというのをを使いながら、自分のホームページを立ち上げる人たちが出てきたということです。これはよりホームページの構築よりも、簡便であり、即時性があるということで、こしはその即効性、即時性を生かしたウエブログが個人の中では目立っておりまひす。なおかつ、企業のウェブサイトよりも非常に生き生きしている。つまり先ほどの高校生たちが、生き生きとしているよふに、何かに目覚めて書いてる人がやはり社会に大きな影響を与え始めたというふなことです。

それで、コミュニケーションツールの変遷からいきまひすと、インターネットという大ざっぱな

世界があります。私たちはホームページという形で、NGOやNPO、もちろんここには、きょうの主催である、Think the Earth や JFS はホームページとかインターネットを使って、世界に発信したり、受信したり、活動をしています。それから、先ほどちょっと申し上げた、ブログ、それからメールなどいろいろ出てきました。ホームページ、メール、ブログに続く第4の大きなメディアとして、実は「おピネット」というのを皆さんにお披露目をしたいと思います。

これは、グランドオープンは実は昨日だったんです。昨日で、ある程度の基本機能ができましたということです。簡単に今日は、時間がないので割愛しながらお話をしたいと思います。コンセプトは、「Feel And Think」というのをコミュニケーションしています。先ほど洪澤さんのお話があったとおり、聞き書く、人に聞くということは、感じる自分があってそれから、よく考えてみよう。「よく考えよう」という、アフラック生命のコマーシャルがありましたけれども、実はアフラック生命のオオタケさんも実はこの発起人の一人になっていただいています。つまり、Feel ということを中心にしようというメディアです。ですから、どちらかと言うと、実は聞き書き型のネットだということです。

そしてちょっと概念だけお話をします。上のほうにアイランドというのがあります。これが一つ一つのコミュニティを指しています。ここに一つ一つのアイランド、フジテレビキャスターの黒岩さん、それから、ちょっと私が関係した、きのころというドングリ、それから、もう一つ、見えない学校フィルムコミュニティー。この一つ一つのアイランドが、皆さんの目的、夢を実現化する島なんですね。今まではある団体をつくったと。団体をつくって、何か組織をつくって、実行委員会があって、理事会があってという構造だったんですが、みんなでこのアイランドを育てていきたいと思いますということです。ですから、ある意味で、今までのピラミッド型の構築ではなくて、アイランドをみんなが育てていきたいと思いますという考え方です。

アイランドという概念がありますけれども、ここにアイコンがいくつか出ていますが、アイコンの形が一つだけ変わっているのがここにあります。実は訪問者が多くなると、アイランドのイラストがより小さい孤島から、少し大きくなっていくという、そういうふうな仕掛けをしています。ですから、パッと見たときに、「ああ、ここは訪問者がもう多いな」と。これは本当は9月から立ち上げて、今多分1万8,000人くらい訪れています。わずか、2、3カ月でそのぐらいの方がこの島に訪問するという形です。

ちょっとコンセプト的な話を先にさせていただきますと、アイランドという概念が出たのは、言葉で言うと、皆さんの暮らし、コミュニティというのは多様性があるということで、多様性の海の中にこういう一つ一つのアイランドがあるんだよというふうな見せ方をしたいということがあります。

では、ツールの使い方を説明したいと思いますので、もう1回ホームへ戻ってください。

これがおピネットという中です。左がログインです。ここにIDとパスワードを入れると、おピネットの中に入れます。名前とパスワードを入れるとログインします。これでおピネットの中へ入ったわけです。皆さん、お帰りになったら、自由にこのホームページへ行くことができます。いま、ヒジカズコさんという名前が入りました。ヒジカズコさんという名刺があります。か

わいい猫がシンボルになっています。今操作していただいているヒジカズコさんの名刺です。「名刺設定」と「名刺を送る」とありますけれども、ここに登録していただくと、名刺を送ることができます。自分が目指している人に名刺を送るとクリックすると、自分からの名刺が届くという一つの機能があります。

そういった形でのソーシャルコミュニティネットワークの機能も兼ね備えていますけれども、実は眼目がここに書いてありますとおり、「フォト日記体験」というのがあります。これもまた、お帰りになったらちょっとやっていただきたいと思います。

「フォト日記」というのは、この機能の大変なところで、簡単に言いますと、携帯メールで、写真を撮って、その場でコメントを書いて、メッセージを書いて、送信とすると、ウェブに上がってしまうようなことです。特に、フィールドワークをやっている森の聞き書きの諸君は、FORMAでももちろん結構ですけども、森に入ってフィールドワークをしますと、ここでこんな木の実を見つけました、こんな樹木を見つけました、こんな生命を見つけましたと、同時にやりながら、一遍にアップしてしまうという感じになってきます。フォト日記見られます？「きのころ」でいいですね。じゃあ、はい、「きのころ」です。

たまたま実験的ですけど、実はこれを立ち上げたのはわずか1カ月もしていません。エコプロダクトのために、このおびネットを使って出展のブースをつくったということです。担当がガクさんという方ですけども、ここに時間が入っています。これは、即時アップをしています。今、このエコプロの会場に行くと、このコーナーがインフォメーションコーナーにあるんです。

これが一番最近の時間です。9日の17時45分の情報が上がっています。これは普通のカメラですけども、この場合は普通のカメラで撮って、コンピューターに入れ込んで、そのままメール等でアップすると、すぐ出てきてしまいます。これはフィールドワーク用に使えるということです。それから皆さんの日々のNPO、NGO活動のときに、自分が感じたことをすぐ撮って、アップできるということです。これもおびネット上の大事な機能の一つです。

では、あとは、幾つかの機能だけを紹介して、最初のプレゼンテーションは閉じたいと思います。「きのころ」の最初へいってみましょうか。このアイランドに帰ると、フォト日記のほかに、「アンケート」という機能があります。これは皆さんが聞きたいことを、アンケートできます。例えばどんなものが好きですかというアンケートをしたとします。

それから、アイランド以外に会員になれます。会員というのは、入会というこのアイランドに寄りますと、自分のボードを持つことができます。「チャレプロ・ネット」はほかのアイランドですけども、ここで言うと、普通「みんなで語りましょう」というのは、ボードです。ここに皆さんからの投稿の件数がずっと出ています。

これが今の人たちの一人ひとりの、アイランドの住人と言っていますが、コミュニティに参加している人たちの意見です。「みんなで語りましょう」はここに出ていますから、夢や希望を語りましょうということで、谷口さんという方がアイランドのオーナーで、若者たち、つまり高校生も含めて、外へ出て行っているいろいろなプログラムに参加しようというプロジェクトです。ここはもちろん他のアイランドからメッセージが来たり、これを見ている人たちということですが、

高校生たちとの会話がここへずっと上がってきます。

一言でちょっと分かりにくいと言えるかもしれませんが、各々が自分たちの夢を育てたいアイランドがあると。そのアイランドに対して、一つはメールの機能と、フォト日記という機能、それから、この施設へ入っている人たちが、一人ひとりが自分のページが持てるということです。Myボードと言います。それから、自分が聞きたいことを世の中に聞きたいということをしてアンケート、つまり個人が、世の中に対してアンケートを行うことができる。これは、棒グラフで数字が出て、三択にすると、三択の中でリアルタイムでそのパーセンテージが分かるということです。

100万人の参加者を私たちは望んでいます。つまり、100万人が即時性でアンケートに答えられる世界は、一つ一つ、私は何を考えて、今何を感しているかということをしてリアルタイムでコミュニケーションできるツールになってくるということです。

少なくともアンケートを出すというのは、どういうことかということ、人にどうですかと聞くことではなくて、先ほど言った聞き書きと同じで、質問自体が意味をなしてくるということです。例えば皆さんは率直に聞きたい、素朴に聞きたいということを一言アンケートを出していただきます。アンケートを出していただくと、右側にボタンが出ます。ボタンをクリックすれば、自分の表文が入ってきて、全体のパーセンテージ、例えば100人の方がこのコミュニティに参加しているとすると、100人の中の何パーセントがAの意見、Bの意見、Cの意見ということが一目瞭然に見えるということです。そういったアンケートの機能があります。アンケートはアイランド全体でアンケートが出せるということと、一人一人であるこのアイランドの住人がアンケートを出せるという構造になっています。

時間がきましたので、私のプレゼンテーションを終わらせていただきますけれども、この新しいツールを使って新しいプロジェクトがかなり容易にできるというふうになってきています。先ほど申し上げました「きのころ」というプロジェクトでは、わずか2カ月の間に約50人ぐらいの方々が参加をして、いろんな専門家の方が参加をして、一つのプロジェクトを完成させたというプロセスがあります。ちょっと分かりにくくて、大変申し訳ないんですが、おうちに帰られましたら、一度おびネットというのを見ていただいて、活発に行われているそれぞれのアイランドの会話を見ていただきたいと思います。

ありがとうございます。